

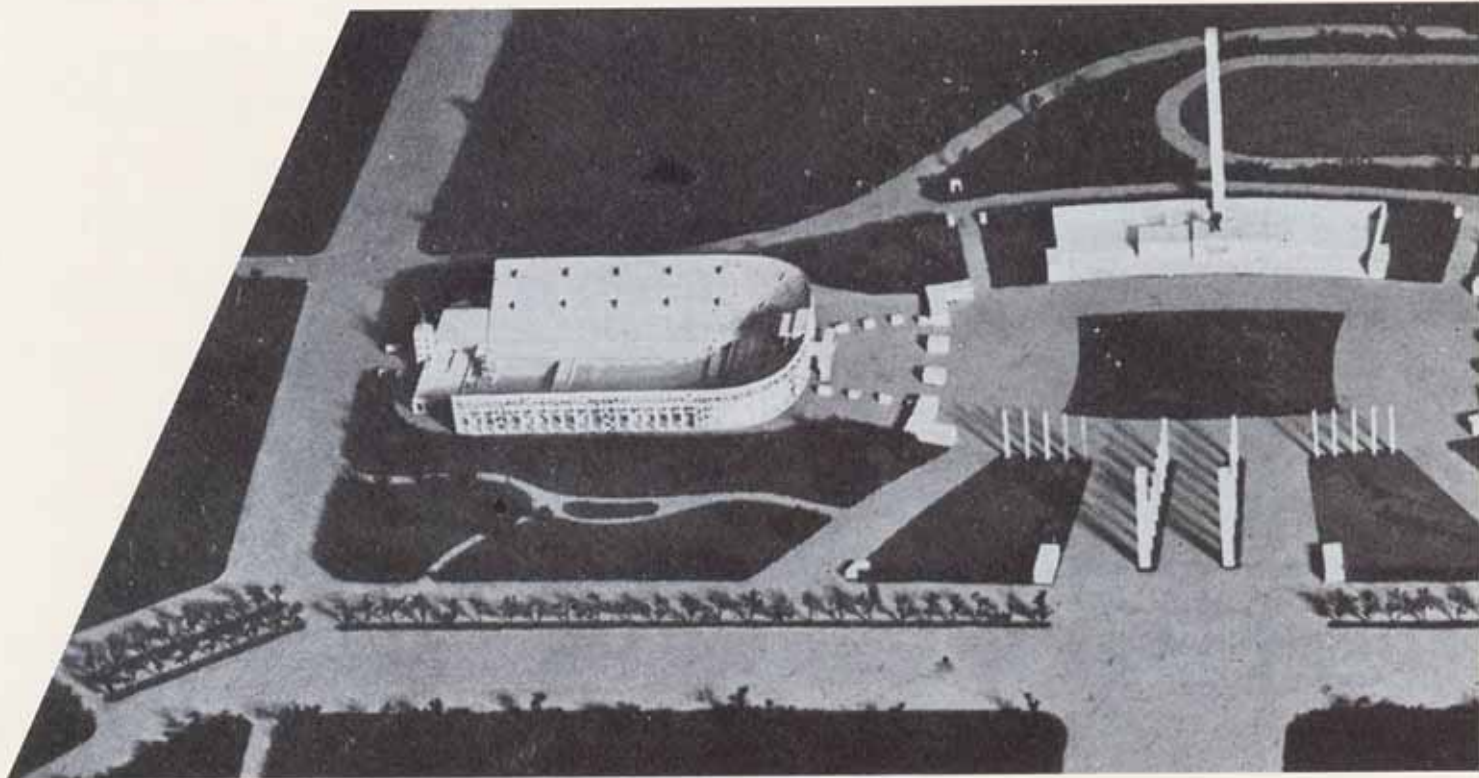


オリンピック・駒沢

1940

～幻の東京五輪計画～





## ごあいさつ

いまから75年前の1940年(昭和15)、ここ駒沢で第12回オリンピック大会の開催が予定されていたのをご存知でしょうか。

当時の東京市(ほぼ現在の23区域にあたります)は、関東大震災からの復興を果たし、世界有数の都市へと発展していました。その東京の姿を国内外に示す最良の機会としてオリンピックの招致を推進し、実現させたのです。ここ駒沢は、メイン会場と選手村の予定地となり、準備が進められていきます。

しかし、1937年(昭和12)に始まった日中戦争が長期化するなか、政府は開催返上を決定することとなりました。

本展示では、幻となった東京五輪計画の概要や、駒沢がメイン会場に選ばれた経緯等を、東京都公文書館が所蔵する資料でご紹介します。

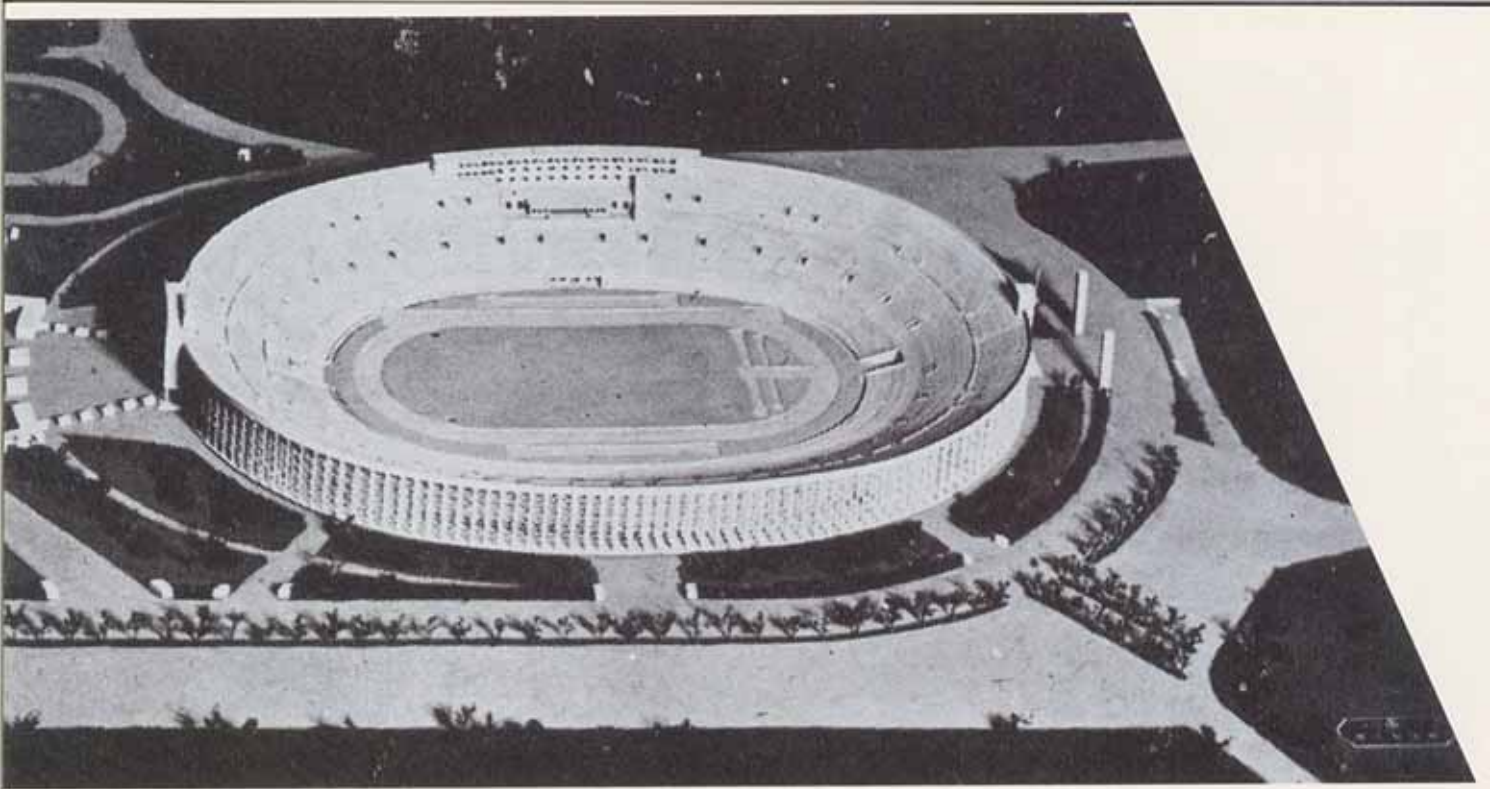
1964年に東京で開催されたオリンピック以前に計画された「幻のオリンピック」を知っていただく機会になれば幸いです。

平成27年10月

(公財)東京都スポーツ文化事業団

東京都公文書館





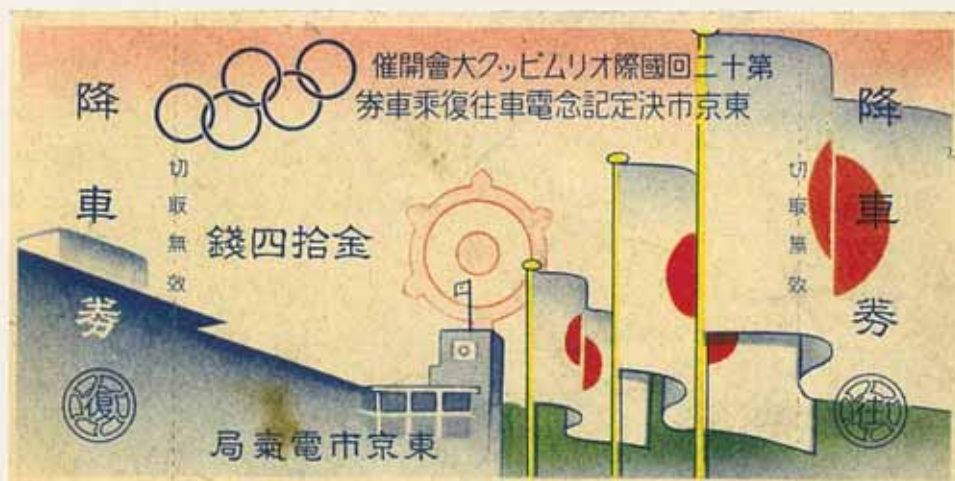
# 1940年「幻の東京オリンピック」開催計画

東京で初めてとなるオリンピック。それは、1964年(昭和39)の第18回大会ではなく、1940年(昭和15)に予定されていた第12回大会であったかもしれません。いまから75年前、東京では実現を目前に控えながらも中止となった「幻のオリンピック」開催計画がありました。

会期は9月21日から10月6日までの16日間。主会場に選ばれたのは、後に駒沢オリンピック公園総合運動場となる区域でした。かつてはゴルフ場としても使われたことのあるこの地に、メインスタジアム・水泳競技場・選手村などオリンピックの主要施設が新たに造られる予定でした。

しかし、戦争が始まったことにより、東京でのオリンピック開催は中止となってしまいます。駒沢に建設されるはずであった競技場も実際には着工さ

れることがなかったため、残された記録のみでしかその姿を知ることにはできません。



「第十二回国際オリンピック大会開催東京市決定記念電車往復乗車券」

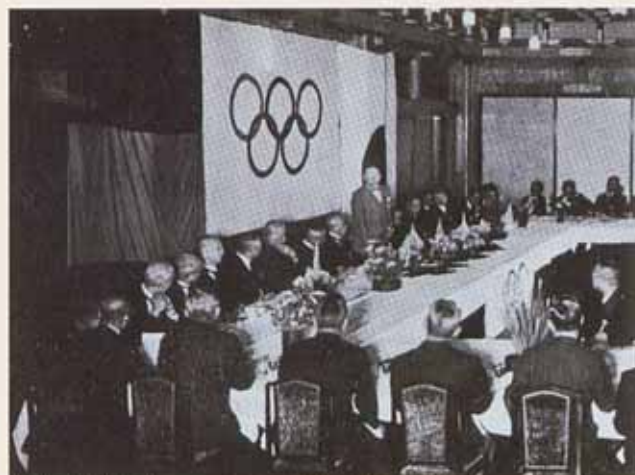
上部写真：  
駒沢総合競技場全景模型  
『東京市紀元二千六百年奉祝記念事業誌』  
(1941年)



# オリンピック招致までの道のり

オリンピックの招致活動において主導的な役割を果たしたのが東京市でした。1930年(昭和5)、当時の東京市長・永田秀次郎はオリンピック開催の意向を表明、東京市会でも同様の建議を翌年に採択し、招致活動が始まります。日本のスポーツ水準の高さをアピールできるうえ、世界有数の都市へと発展した東京の姿を国内外に示すにあたり、オリンピックは絶好の機会だという認識が、その背景にはありました。

1932年、東京市はIOC(国際オリンピック委員会)に招請状を提出することを決め、日本代表委員であった嘉納治五郎にその任を託します。アジアでのオリンピック開催例はいまだなく、欧米の選手には長距離の遠征を強いることにもなるため、地理面での不利も指摘されましたが、1936年4月にはラトゥールIOC会長を日本に招き、支持の取り付けに成功します。招致が確定したのは、その年の7月、ベルリンオリンピックにあわせて行なわれたIOC総会でした。委員による投票の結果、オリンピック開催都市としての地位を東京は手にします。



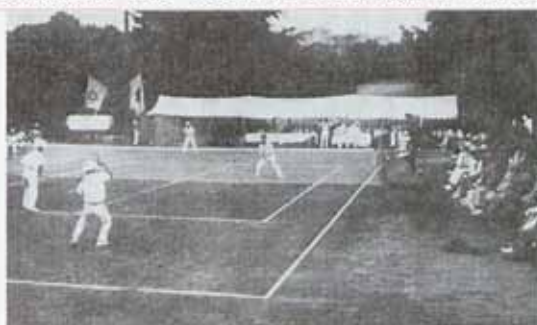
来日したラトゥールIOC会長の歓迎会  
『第十二回オリンピック東京大会東京市報告書』(1939年)

## 招致を支えたスポーツ文化

1931年(昭和6)10月、東京市会はオリンピック実現に向けた取り組みを市長に求める建議を採択します。前年の市長による意向表明と並び、この建議は東京市が実施した招致活動の原点と位置づけられるものです。建議は5名の市会議員による共同提出でしたが、そのなかに戦後文部大臣を務める松永東がいました。

東京市役所では1927年(昭和2)からテニス愛好家の職員や市会議員らによる競技大会が行なわれていました。1929年には大阪市役所との交流試合も加わり、優勝杯をめぐる両市の対抗戦が催されるようになります。その東京チームを率いるリーダーが松永でした。

1931年8月、大阪で繰り広げられた第3回対抗試合の後、大阪市長も臨席した慰労会の場で松永はオリンピックの東京招致を明言します。このことがひとつのきっかけとなり建議が提出されるに至ります。招致活動の背景には、こうした市政関係者が支えるスポーツ文化があったのです。



「東京大阪両市役所庭球対抗試合」の風景  
『東京都庁・大阪市役所庭球対抗試合20年史』(1957年)



# メインスタジアムはどこに？

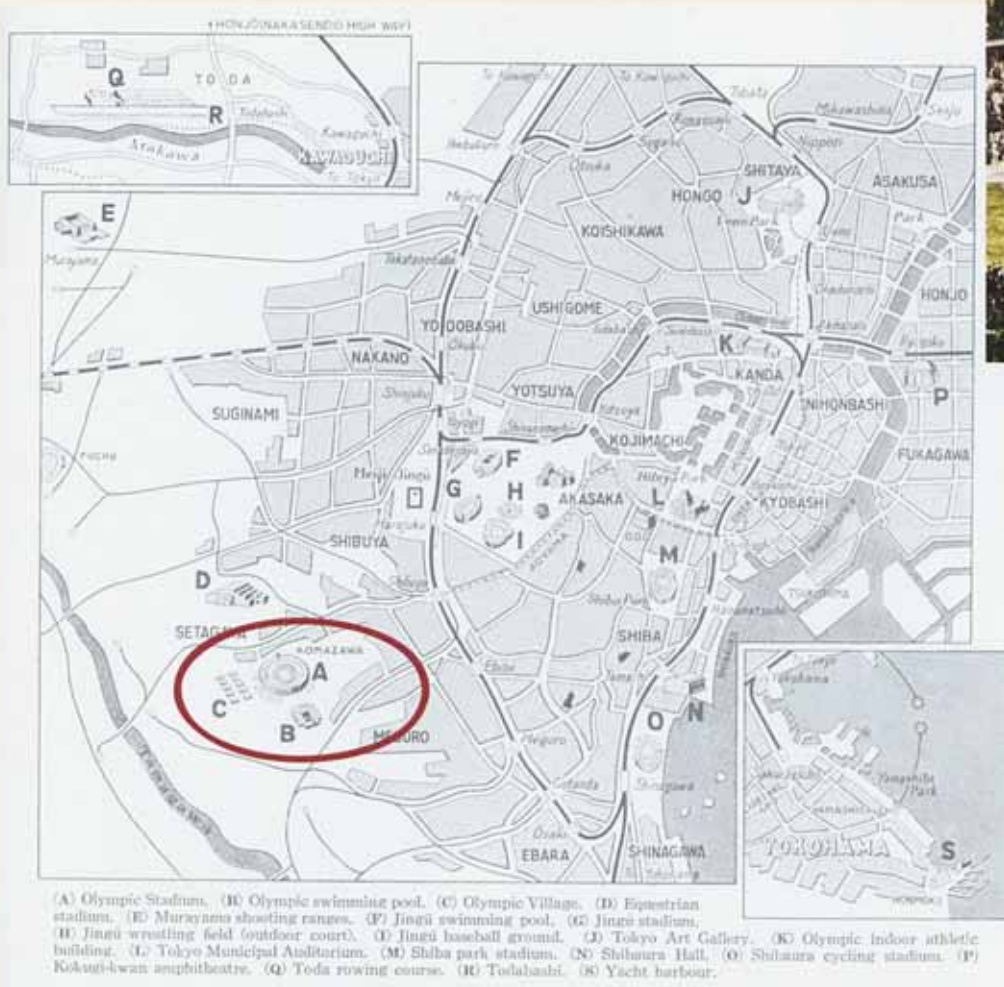
オリンピックの東京開催が決まり、準備作業が本格化するなかで新たな問題が浮上します。それは、メインスタジアムをどこにするのかということでした。

招致活動の段階では明治神宮外苑が主会場の予定地とされており、大日本体育協会やオリンピック東京大会組織委員会は外苑にある陸上競技場を拡張したうえでメインスタジアムにあてようとしていました。一方、東京市はスタジアム新設の計画を立て、その建設地として東京湾の埋立地を提案します。

ところが、神宮外苑案では拡張に必要なとなる用地の確保が難航し、埋立地案も競技関係者を中心として海風の影響を懸念する声が根強くあったため、いずれの案も進めることができず膠着した状態が続きました。こうしたなか、次第に新たな候補地へと目が向けられるようになります。



絵はがき「明治神宮外苑競技場」『大東



円内が駒沢地区 **A**メインスタジアム **B**水泳競技場 **C**選手村



# 駒沢総合競技場の整備

メインスタジアムの新たな候補地として選ばれたのが駒沢でした。1938年(昭和13)4月、組織委員会はすでに確定していた水泳競技場や選手村とあわせメインスタジアムも駒沢に建設することを決めます。



駒沢ゴルフ場

第12回オリンピック東京大会組織委員会作成『報告書』(1939年)

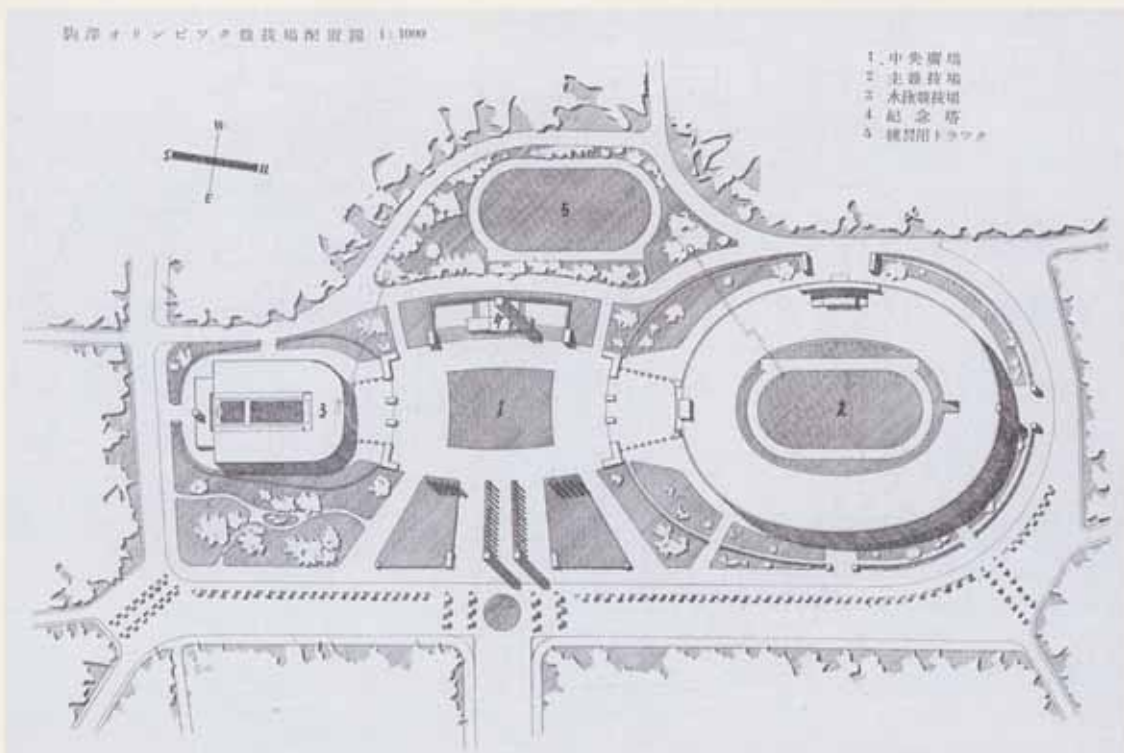
設計や建築は東京市が担当

することになりました。1938年5月、市は庁内に臨時建築部を設置し、各種競技場の整備にあたらせます。このとき東京市が策定した構想によると、駒沢

では敷地の中央に記念塔を擁した2万6千平方メートルにわたる広場を設け、その北側にメインスタジアム、南側には水泳競技場を配置する計画であったようです。メインスタジアムの陸上トラックやフィールドは国際陸上競技連盟が承認した基準を満たすものとし、観客席も仮設スタンドを含めると10万人超が収容可能な世界最大級の競技場となる予定でした。



『東京五十景』(1930年代)



駒沢総合競技場全景図 第12回オリンピック東京大会組織委員会作成『報告書』(1939年)



# 戦争とオリンピックの返上

競技場の建設計画は、1937年(昭和12)から始まった日中戦争による制約を受け、度重なる修正を迫られていました。とりわけ難問であったのが建設資材の確保でした。軍事関連物資の生産を優先させるため、東京市は政府から競技場建設に必要な鉄材の使用量削減を求められます。一部を木材に切り換えるなどの措置が講じられましたが、理解を得るのは容易でなく準備作業は困難を極めました。

こうしたなか、オリンピック自体の取りやめを検討する動きが現れます。海外では日本の戦争に反対する声が高まり、ボイコットをうけるおそれも予想されるようになりました。1938年7月15日、政府は第12回オリンピック競技

大会の返上を閣議決定し、組織委員会と東京市にその旨を伝えます。いずれも政府の意向を直ちに受け入れたことで、1940年の東京オリンピックは中止となり、駒沢に建設される予定であった競技場も起工には至らず幻となってしまいました。



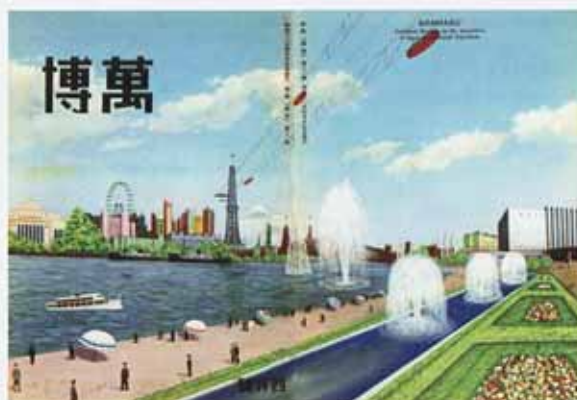
アベリー・ブランデーIOC委員(左から3人め。1964年大会当時のIOC会長)に競技場計画を説明する東京市政幹部  
『東京百年史』第5巻(1972年)

## 幻の万国博覧会計画

東京オリンピックを予定していた1940年(昭和15)には、同じくアジア初となる万国博覧会の開催が計画されていました。

会期は3月15日から8月31日まで、メインとなる第1会場が現在の晴海および豊洲にあたる埋立地、第2会場は横浜市の下山公園というように、東京湾をはさむウォーターフロントが舞台となる予定でした。会場には観覧車を備えた遊園地を併設する構想もあったようです。

しかし、日中戦争が始まったことから、1938年に政府はオリンピックの返上とあわせて万国博覧会の開催延期を決定します。その後、メイン会場へのアクセスのため架けられた勝鬃橋など一部関連施設は造られたものの、戦争が長期化するなか万博の開催計画自体は立ち消えとなってしまいました。



日本万国博覧会イメージ図『万博』第12号(1937年)





オリンピック招致決定を喜ぶ東京市設案内所の職員  
『第十二回オリンピック東京大会東京市報告書』(1939年)

## 東京都公文書館のご案内

東京都公文書館は、1968年(昭和43)10月、東京都の公文書等を総合的・統一的に保存管理するために開設されました。

以来今日に至るまで、東京都の歴史的資料として重要な価値を有する公文書等を収集・保存するとともに、一般への公開を行ってきました。

現在、約89万件に及ぶ東京都公文書のほか、東京都の前身である東京府・東京市行政文書(約3万4千冊 国指定重要文化財)や、江戸・明治期の史料等を保存・公開しています。

### 東京都公文書館

〒158-0094

東京都世田谷区玉川1丁目20番1号

TEL 03-3707-2604

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/>

### 交通案内

東急田園都市線・東急大井町線  
「二子玉川」駅東口下車 徒歩約15分

東急大井町線「上野毛」駅下車 徒歩約10分

東急二子玉川駅・上野毛駅から  
東急バス(黒02系統)「玉川高校前」下車

### 編集・発行

東京都公文書館

### 発行日

平成27年10月1日



東京都公文書館HP